

INFO SATAKE

2019 Spring vol.15

最新情報は
こちらでチェック!



サタケ公式
Facebookページ



SAXES V(7トンタイプ)

**高耐久・穀物乾燥機シリーズに
大容量の「SAXES V」**

大規模生産者向けの高耐久・穀物用遠赤外線乾燥機SAXESシリーズに、大容量タイプの「SAXES V」(サクセスV)が新登場しました。

最大処理量(粉)フロンから10トンまでの4機種をラインアップし、SAXESシリーズの共通機能である高耐久性やICT対応はもちろん、今回新たに①全高オーダーの実現(ミリメートル単位で高さを指定可能)②さらなる安全安心設計③パケット幅10インチの昇降機搭載④LEDライトによる穀物水分域の表示⑤全高を抑えた設計、などの新機能を追加しました。

LEDライトを配置したフロントパネルは、デザインがスタイリッシュだけでなく、運転中の穀物水分域を「色」の変化で表示するという、機能性を兼ね備えたもの。「プロ農家」の皆さまにご満足いただける乾燥機へ、さらに進化したSAXESシリーズにぜひ、ご期待ください。

お客様インタビュー

福島県福島市 / JAふくしま未来 様



新原町CE全景

今でも震災の爪痕が残る福島県。管内が津波と原発事故で大きな被害を受けたJAふくしま未来(ふくしま未来農業協同組合、代表理事組合長・菅野孝志)も現在、災害復興と地域農業の振興に懸命に取り組んでいる。同JAのそつま地区(福島県南相馬市)を訪れ、農業の現状と課題などを取材した。

そつま地区と農業

福島県北東部に位置するJAふくしま未来は、組合員数は約9万5000人、全国6番目の売上規模を誇るJAだ。今回訪れた同JA管内のそつま地区(福島県南相馬市)を訪れ、農業の現状と課題などを取材した。

新カントリーの建設

農家の高齢化問題はそつま地区も例外でなく、65歳以上が60%を占めていて、中山間地では跡継ぎがない問題に直面している。そのため乾燥調製作業をカントリーエレベーター(CE)に任せる農家が増加し、そつま地区管内に4基あった

そつま地区も、震災時には津波で多くの家屋、田畑、道路、施設などが大きな被害をこうむった。「夏はカラッと湿度が低く、冬は温暖な気候で生活しやすい。人柄は温和な土地柄」と語るのは、そつま地区担当常務理事の星保武氏。地区の農業はコメが中心だが「約1万2000畝あった農地が震災後8000畝程度に減少している」と、コメ作りが元に戻らない状況に心を痛める。本格的にコメ作りを再開できたのも震災から5年後であった。2018年のコメ生産量は7982トン(主食米2113トン、飼料米5869トン)で、品種はコシヒカリ50%、天のつぶ40%、その他(ひとめぼれなど)が10%だ。



星保武 常務理事

未来への思い

水稲玄米を約1850トン、大豆を約280トン処理可能な新原町CEは2019

CEでは、いずれも集荷量が処理能力をオーバーする、という事態が生じていた。震災により5基のうち1基が使用できなくなったこともあるが、中には稼働率が150%に達する施設もあったという。

増加する需要に対し、農家(組合員)のためにと懸命に対応し切り抜けてきたCEオペレーターは、その尽力に感謝しながら「農業を守るためには新しいCEが必要であった」と星氏は語る。果たして、新CE(「新原町CE」)の建設が南相馬市の震災復興事業として国から認められ、2018年1月に安全祈願祭、同年11月5日、検査引き渡しが行われた。施工はサタケが行い、南相馬市からJAふくしま未来に賃貸契約という形で施設を提供している。

年から本稼働する。これにより、ひとまず処理能力オーバーは回避できた。星氏も安堵の表情を浮かべつつも「CEが多忙になるのは時的なものであり、年間を通じての人員確保は固定費の増大につながる。また、技術力の優劣は、製品品質や作業効率に影響を与える」と、オペレーターの人員確保と技術力の継承に問題を提起する。

一般にCEにおける維持・管理費と利用料金の収支バランスには苦慮するところである。そつま地区でも例外でなく、「コメを主体とする農家のため利用料を安くしたいが、さまざまな効率化とコスト削減をしなければならぬ」と星氏は語る。トラブルが少なく、誰でも操作ができるシステムをメーカーに望むのも、その考えが根幹にあるからだ。

サタケはメーカーとしてより良い製品システムを提供する責務があるが、技術力や現場対応力をクライアントの実情に合わせて提供することの意義も認識している。実際にそつま地区では収穫シーズン中に、サタケがCEオペレーター業務の一部支援を行った。サタケの経験と技術の提供に



新原町CE内部

より、CEの運営支援とオペレーターの技術力向上を期した。「JAとメーカーが協調し、日本農業の維持継続を図らねば共倒れになる。国も農業を生かす政策を実行して欲しい」という星氏の言葉は強く心に響く。

「JAふくしま未来」。まさに、未曾有の震災から立ち上がり、未来に向かって歩む姿を思い起こさせる。福島県のホームページにも「ふくしまからはじめよう。Future From Fukushima」とあるとおり、それは未来への挑戦であり、ゆっくりでも確実に復興していく福島を象徴している。新原町CEの取材を通し、南相馬市、そしてJAふくしま未来の思いを、星氏の言葉から強く感じ取った。

「2019NEW環境展」 PET破砕品の選別を実演

3月12日からの4日間、東京ビッグサイトではアジア最大級の環境・ビジネス展示会「2019NEW環境展(N.E.X.P.O 2019)」が開催されました。サタケは今回、プラスチックリサイクルにも対応する多用途シユート式光選別機「ピ力選別機」を出展し、PET破砕品の選別実演を行いました。

同機は従来の色彩選別に加え、形状選別機能を搭載しており、良品と同色の形状不良品も選別できます。また、自動検量線作成システムにより、現場での感度設定が容易にでき、さまざまな原料へも迅速に対応可能です。今回もリサイクル関連業界を中心に、多くの方に実演をご覧いただきました。



残留農薬一斉分析、 料金を一部引き下げ

サタケは2006年、ポジティブリスト制度※の施行に合わせ、米や野菜などを対象とした残留農薬一斉分析サービスを開始し、現在まで多くのお客様にご利用いただいています。近年は安全安心意識の高まりから、生産者や流通業者において残留農薬分析へのニーズも高まる傾向にありましたが、分析にかかるコストがネックとなっており、より低価格化を望む声が多く寄せられていました。

このためサタケでは分析手法を見直し、より高性能な分析装置(ガスクロマトグラフタンデム質量分析計)を導入。従来法に比べ分析工数を削減できるため、分析料金をこれまでの5万円から20%引き下げて、1検体あたり4万円(税抜)としました。溶媒(有機溶剤)使用量については従来の50%以下に削減でき、環境負荷の軽減にも寄与します。

※：国内に流通する食品について、残留基準が設定されていない農薬等であっても、定量以上含まれている場合には流通を原則として禁止する制度。規制するものについてリスト化する「ネガティブリスト」に対し、「ポジティブリスト」は原則すべてを規制したうえで、使用を認めるもののみ基準を定めてリスト化する。



ガスクロマトグラフタンデム質量分析計

ライステクノプロダクトが 厨房設備機器展に洗米機出展

ヒトモノ情報の交流と発信を通じて、サービス産業の活性化に貢献するホスピタリティとフードサービスの商談専門展「HCJ2019」が、2月19日から4日間、東京ビッグサイトで開催されました。このうち厨房設備機器展には、サタケグループで業務用洗米機器を製造販売するライステクノプロダクトが出展しました。

参考出展した、7月発売予定の新型業務用洗米機「ライスミニコンパクト」は、壁掛け使用も可能で、シリーズ最小となるモデルです。各界で人手不足が問題となる中、作業の効率化や節水など、厨房環境の改善をリードする製品として今後の動向が注目されます。



ライスミニコンパクト

SAXESが「スタイリッシュ ネーミング賞」受賞

このたび、日刊工業新聞社主催の「第29回読者が選ぶネーミング大賞」において、サタケの高耐久穀物乾燥機粉摺機「SAXES」が、同賞・ビジネス部門の「スタイリッシュネーミング賞」を受賞しました。

同賞は、1年間(2017年秋～2018年秋)にヒットし話題になったネーミングの中から、内容的確かつ感性豊かに表現しているものについて、日刊工業新聞やメトロガイド、ホームページなどで告知し、読者からの投票結果をもとに選定するものです。

2018年3月に発表した「SAXES」シリーズは発売以来、高耐久性や従来機にない専用デザインの採用などで高い評価を受け、好調な販売につながっています。同賞の受賞は、3月に販売開始した大容量タイプの乾燥機「SAXES V」と共に、今後の販売活動の励みになると考えています。



表彰盾

▼日刊工業新聞社・井水治博社長(左)とサタケ広報部長・宗貞毅

2018年度 第29回 読者が選ぶネーミング大賞

海外向け新事業ブランド 「REACH」を創設

このたび、海外向けの新事業ブランド「REACH(リーチ)」を創設し、主に東南アジアや南米、アフリカなどの中規模精米事業者(ミドル層)を対象に、粉摺精米プラントの販売を開始しました。

「REACH」プラントは、タイのサタケグループ生産工場ユニット化(フレハブ工法)し、納入先の現地で組み立てる工法を採用しており、施工期間(据付工事期間)を従来の3～4か月から約2週間に大幅短縮できます。そのため人件費などのコスト低減できるとともに、顧客は短期間に操業開始できます。今後は中規模事業者を中心に、同ブランドのメリットを訴求していく考えです。



「REACH」粉摺精米プラント

中国農産品加工研究所とサタケ 包括提携契約を締結

1月17日、サタケと中国農業農村部(日本の農水省に相当)中国農業科学院農産品加工研究所は、穀物加工分野での技術交流を主目的とする包括提携契約を締結しました。同研究所と日本の民間企業との提携は今回の提携は今回が初めてです。今後は雑穀豆類のGABA富化技術や米粉製粉技術などの共同研究を行っていきます。



農産品加工研究所 朱捷処長(右)とサタケ取締役 佐々木講介

サタケヨーロッパ・アフリカの コーヒー展示会に出展

2月13日から、アフリカルワンダの首都キガリで開催されたコーヒー業界の展示会に、サタケヨーロッパが出展しました。アフリカ市場において、

コーヒー豆の高品質化へのニーズが高まっており、多くの来場者から光選別機が注目を集めていました。



サタケの新企業CMを制作

サタケでは未来を創る「技術」に日々向き合い、チャレンジし続けています。イノベーションを起こすためには柔軟な発想はもちろん、機械をまるでオモチャのように触って遊ぶ「アンビゴ」も大切な要素です。今回のTVCMではサタケの技術を惜しみなく使っての大人が機械で遊びながら様々なことに「チャレンジ」してきあがりましょう。

「オーケストラ篇」では、光選別機を合唱団員に見立て、エジエクタバル(空気噴射弁)の振動でメロディーを演奏。見事にベーターの第九を歌いあげています。CM動画はYouTubeでも視聴できます。ぜひ、ご覧ください！

アソビゴコロで未来をつくる



YouTube サタケ公式チャンネル

オーケストラ編

小説家編

ファクト吹替え編